乳児期における絵本読み場面の母子相互行為の変化：縦断的観察による分析

関　根　佐也佳

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
『人間文化創成科学論叢』第 15 巻（2012年）
2013年３月発行　抜刷

人間文化創成科学論叢　第15巻　2012年

乳児期における絵本読み場面の母子相互行為の変化：縦断的観察による分析

関　根　佐也佳*

Changes in mother-child interaction during picture-book reading in infancy: A longitudinal study and analysis

SEKINE Sayaka

Abstract

The purpose of this research is to discover, through a longitudinal study conducted of detailed changes in the interactions between mothers and children between the ages of 6 and 20 months, a method of improving communication between mother and child. The study's participants were 5mother-child dyads (3boys, 2girls). Once a month, the researcher observed and recorded mother-child interactions during picture-book reading. Transcripts of certain behaviors were analysed qualitatively, with particular focus paid to such things as mother's acting behavior (e.g. , mimicking an animal's cry), in order to find those behaviours thought to promote good communication between mothers and their children. The results were that after about 12months mothers began to pose "questions for the child" and children started to "imitate characters" and to produce "utterances" relevant to the story. An analysis of the content of mother-child interactions revealed that mother's acting behaviours such as: "imitating animal sounds", "imitating character behaviours", "play-feeding of the child" "reading with emotionally", "demonstration of rules for daily living" and "posing questions to the child" were all seen to be part of increasingly lively mother-child interactions. It is thought that such behaviours are important in promoting good communication between mothers and their children.

Key Word: mother-child interaction, picture-book reading, infancy, longitudinal study, acting behavior

1．問題

絵本は，子ども達にとって身近な存在であり、絵本を読み聞かせるという行為は子ども達にとって様々な側面で影響力を持つものである。これまでの研究では、保育園内で日々行われる絵本読みが子ども達の共感行動や援助行動などの向社会性の発達を促進することが報告されている（堂野・光本・堂野、2007）。また、小児科の待合室での子ども達の不安軽減に絵本読み行為が効果を表したという報告もなされている（小川、2008）。

近年では、絵本の読み聞かせは低年齢児においても多く行われてきている（秋田・無藤、1996）。秋田・無藤（1996）によれば、絵本読みは、活字文化に子どもが接する契機を与え、空想世界を共有し、親子の楽しい語らいの場を与える行動であるという。絵本読み場面は、多くの家庭で行われている親子の触れ合い場面の一つであり、子ども達にとって、社会的な発達を促し、安心感を与えるなど、子ども達の発達へ良い影響力を持つツールの一つとして考えられる。

このように、子どもの発達との良好な関連性を重視される絵本読みは、実際にはどのように行われているのか、

キーワード：母子相互行為、絵本読み場面、乳児期、縦断的研究、演出行動

＊平成24年度生　保育学専攻

外山（1989）は、１歳半から２歳までの母子の絵本読み場面における子どもの名称づけと母親のフィードバックの関連性を中心に分析し、母親による様々な発話の存在を明らかにした。また石崎（1996）は、１歳代の子どもと母親を対象として絵本読み場面の中でどのような対話の構造、フォーマットが存在するかを明らかとし、母子により個人差が見られることを見出した。

しかしながら、これまでの研究では、家庭での日常的な絵本読み場面において母子相互行為にどのような行動・発話が存在し、変化していくのか、低年齢児を対象とした実際の事例を交えて縦断的に検討した研究は少ない（外山、1989；石崎、1996）。本研究では、生後６ヶ月齢からの母子絵本読み場面を毎月、縦断的に観察することにより、母子相互行為の変化を追った。さらにここでは、秋田・無藤（1996）のいう親子の楽しい語らいの場が、どのように形作られていくのかについても焦点を当てる。そのため本研究では、母子の指さしなどの基本的な行動に加え、子どもとの絵本読みに楽しさを加えようとする母親の演出行動（擬音語の発声や絵本を動かす等）、子どもの模倣行動（登場人物や母親の真似等）に注目する。絵本読み場面における親子の共同活動について、母子の指さしという観点から分析した菅井（2012）の研究では、紹介された事例の中で、登場人物の模倣を行う子どもの姿や、擬音語を発声し指さしを用いて登場人物の動きを再現するなどの母親の演出と受け取れる行動が母子共同活動の中に現れ、母子が積極的に絵本に関わる様子が見られた。このように、母親の演出的な行動と子どもの模倣行動は、母子のやり取りにおいて度々出現する行動であり、母子相互行為が活発化していくための一端を担っている行動であることが考えられる。しかしながら菅井（2012）の研究は、初期の母子絵本読みにおいて子どもが母親との関係を築き、子どもが言語形式へと移行していく上での指さしの重要性が中心に述べられており、様々な母親の演出行動と子どもの模倣行動の種類、また相互行為においてどのような働きが見られるのかについて詳細には言及されていない。本研究では母子の楽しい語らいの場が生じる過程を調査するに当たって、重要な要素となることが推測される母親の演出行動、子どもの模倣行動に焦点を当て、それらの行動によって母子相互行為に何がもたらされるのか、楽しい語らいの場がどのように形作られていくのかを検討する。

以上のことから、本研究の目的を以下に定める。

前言語段階の乳児期（生後６～20ヶ月）を対象とした縦断的調査において、乳児とその母親との絵本読みでのやりとり（相互行為）の変化を追うことを目的とする。具体的には、質的分析により絵本読み場面での母子相互行為において行動が出現した月齢を見出し、実際の発話・行動の変化を事例から、子どもの模倣行動と母親の演出行動を中心に母子相互行為の加齢に伴う変化と親子のふれあい場面としての楽しい絵本読み場面が現れる過程に、どのような行動が生じているのかを検討する。

２．方法

２．１　協力者と期間　協力者は５組の母子であった。協力者の内訳は男児３名、女児２名であった（Ａ児：男児　第一子、Ｂ児：男児　第三子、Ｃ児：女児　第一子、Ｄ児：男児　第二子、Ｅ児：女児　第一子）。期間は、子どもが生後６ヶ月齢となった時点から20ヶ月齢となるまでの15ヶ月間であり、毎月撮影を行った。撮影にあたっては観察者が各家庭を訪問したが、長距離の場合にはSDカードの郵送によるやりとりによって、撮影は協力者にまかせた。Ｄ児とＥ児については撮影開始時期の関係により、Ｄ児は７～15ヶ月齢、Ｅ児は６～13ヶ月齢までを分析対象とした。

２．２　観察方法　子どもが生後６ヶ月となった時から毎月、対象児が各月齢を迎える日の前後に家庭を訪問し、カメラにより撮影を行った。絵本読みは日常生活に近い形をとってもらうため、「いつもと同じようにお子さんにお読みください」と教示した。

撮影時には、母子から１ｍほど離れた場所に三脚を置き、母子の表情、絵本のページが映るようにカメラを設置して録画を行った。しかし、子どもがおもちゃなど絵本以外のものに夢中になる事、カメラのフレームから外れることもあり、撮影方法はその場の状況に応じて変化させた。撮影の前後には時折、母子と観察者との間でのやり取りを行った場面もあり、母親から子どもの様子や絵本への考えなどの情報が得られた。また観察者は子どもとおもちゃを用いて一緒に遊ぶこともあり、ラポールを形成することが出来た。

２．３　絵本について　絵本は調査者が選択した絵本、協力者が選択した絵本の２冊を毎月の撮影で用いた。調査者が選択した絵本は毎月異なるものであり、各月齢において理解していると思われる概念が現れている絵本を選択した（絵本についてはTable１を参照）。

Table１　用いられた絵本

①がたんごとんがたんごとん	（６ヶ月）	作：安西水丸
②いないいないばあ	（７ヶ月）	作：瀬川康男
③たまごのあかちゃん	（８ヶ月）	作：かんざわとしこ
④きゅっきゅっきゅっ	（９か月）	作：林朋子
⑤おつきさまこんばんは	(10ヶ月)	作：林朋子
⑥くだもの	(11ヶ月)	作：平山和子
⑦コップちゃん	(12ヶ月)	作：中川ひろたか
⑧ぶーぶーじどうしゃ	(13ヶ月)	作：山本忠敬
⑨きんぎょがにげた	(14ヶ月)	作：五味太郎
⑩ピンポーン	(15ヶ月)	作：中川ひろたか
⑪おとうさん　あそぼう	(16ヶ月)	作：なかのひろたか
⑫ぞうくんのさんぽ	(17ヶ月)	作：なかのひろたか
⑬とっとことっとこ	(18ヶ月)	作：まついのりこ
⑭こぐまちゃんとぼーる	(19ヶ月)	作：わかやまけん
⑮ぎったんばっこん	(20ヶ月)	作：なかえよしを

２．４　分析指標　録画された映像はすべて文字化し、トランスクリプションを作成した。月齢においてどのような行動が存在したのか、また、事例においてどのような行動が現れているのかをわかりやすく明示するため、各行動のカテゴリー化を行った。それぞれの母子のトランスクリプションから共通する行動であると思われるものをまとめ、カテゴリーの命名を行った（Table２参照）。カテゴリーの一致率を算出したところ、κ＝.79という信頼できる値が見出せた。不一致の箇所は、調査者と第３者の間で協議し、必要によって定義の修正などを行うことにより、解決した。

２．５　行動カテゴリー　Table２は、各月齢の母子相互行為からまとめられた行動カテゴリーとその説明を表したものである。それぞれの行動カテゴリーは、本研究において観察者が見出した行動カテゴリーと近しいものであると考えられ、絵本読み場面での母子相互行為を主に量的研究によって調査したAdriana & Marinus (1997)、Senechal & Cornell & Broda（1995）の行動カテゴリーを参考としながら定義について検討した。

母親のカテゴリーである「指さし」、「演出」、「質問」、「説明」についてはAdriana & Marinus（1997）の「言及（Referencing)」、「反応の引き出し（Evoking response)」、「指さし（Pointing)」カテゴリー、Senechalら（1995）の「説明（Elaboration)」、「質問（Question)」を参考とした。子どもの「注目」行動については、Senechalら（1995）を参考とし、子どもの頭や目が本のへりに並び、２秒以上その状態が続いた場合を「注目」とした。「活動的働きかけ」、「指さし」についてはAdriana & Marinus（1997）の「本上の活動（Acting Upon Book)」、「ページめくり（Page Turning)」、「反応（Responding)」のカテゴリーを参考とした。「非言語的発声」はSenechalら（1995）の「子どもによる言語（Child vocalization)」を参考とした。「子どもによる言語」は、非言語的乳幼児によって作られる言語、本のイラストについてのラベル付けに使用される単語、質問への反応を含むカテゴリーであった。

Table 2　使用されたカテゴリーについて

名称	定　　義	例
母親のカテゴリー：		
注意喚起的行動		
・指さし	人差し指を使って絵を指し示す行動。	ex. M「やあ、カバくん。カバくん＜カバを指さす＞」
・演出	絵本を読むときに効果音を出したり、絵を動かすなどの演出的な要素を含む行動。	ex. M「びゅ～ん＜ひざを揺らす＞」 M「お鼻がなが～いんですよ～＜Cの鼻を軽くつまむ＞」
・発声	子どもが注意をそらした直後に発せられる声かけ。子どもが絵本とは異なる方向を見ているときに、発せられた状況説明や名称付け、質問は注意喚起的発声として捉えることとする。	ex. M「（子どもが目をそらしている状態で）わあー。ほら、みてごら～ん。おっきいよ。」 M「見て、Coちゃん。」
・説明	子どもが絵本を見ている、興味を持って接触している状態で発せられる絵本の中の名称付けや状況説明。子どもに情報を与える行為として位置づける。	ex, M「あ、ワニさんもだよ＜Coの顔を見ながらワニを指さす＞ワニさん、ワニさん。」
・質問	子どもが絵本を見ている、興味を持って接触している状態で発せられる絵本に関連した事柄の質問。 ただし、子どもの気持ちを代弁するような確認の意味での質問はこれに含まない。	ex. M「お腹に袋ありますか～？＜Coの顔を見る＞」 M「うん、教えて。どのきんぎょさん？」
子どものカテゴリー：		
・注目	絵本を見ている状態。子どもの頭や目が絵本のヘリに並び、２秒以上その状態を保った時、注目が行われたとする。	
・非単語的発声	喃語のように言葉として成り立っていない発声。	ex. Co「ばっぱ」「あーあーあー」
・発話	有意味語とみなされる発声。はっきりと発音されていなくとも、前後の文脈を考え単語に近い発声が出現したと思われる場合にこれに含む。	ex. Co「マーマ、パーパ」「これ、これ＜ボートを指さす＞」
・内容的働きかけ	絵を見て手のひらで叩く、顔をつけるなどの絵に対して興味を持って接触していると思われる行動。	ex. Co「でしゃ＜コアラを手で触る＞」
・指さし	絵本の中の対象を指さす行動。主に人差し指で行われるが、第三者（ここでは母親）に対象の存在を伝えようとして手のひらで絵を叩いた場合などはこれに含む。この点については前後の文脈を見て判断する。	ex. Co「＜赤ちゃんザルを指さす＞」 Co「（Mのきんぎょを教えてほしいとの問いにたいして）Co：だっだっだ＜本いっぱいのきんぎょの絵を手の平で叩く。」
・模倣	登場人物の行っている行動、母親の行っている行動、発話を見る、聞くなどして真似をする行動。母親の接触無しに、自発的に発生した場合を評価する。	ex. Co「＜絵本を見る＞うーゆー＜ナマケモノを指さし、腕を伸ばす＞」
・絵本への働きかけ	絵本をかじる、抱えるなどの絵本そのものに対する働きかけ。	ex. Co「＜絵本を自分の前に引き寄せて、口にはこぼうとする＞」

注. ここでは母親はM、子どもをCoとして記述する。

３．結果と考察

３．１　行動の初発月齢からみた母子相互行為の変化　母子相互行為の変化が見られた時期を検討するため、それぞれの行動カテゴリーが確認された月齢を母子ごとにまとめた表を作成した（Table３）。ここでは、母親の演出行動、子どもの模倣行動を中心として母子相互行為の変化を検討する。

Table 3　行動カテゴリーの初発月齢

			A児		B児		C児		D児		E児	
			子ども	母親	子ども	母親	子ども	母親	子ども	母親	子ども	母親
カテゴリー	母親	説明	－	６ヶ月	－	６ヶ月	－	６ヶ月	－	８ヶ月	－	９ヶ月
		質問	－	12ヶ月	－	17ヶ月	－	14ヶ月	－	12ヶ月	－	12ヶ月
		演出	－	７ヶ月	－	６ヶ月	－	７ヶ月	－	７ヶ月	－	６ヶ月
	子ども	注目	６ヶ月	－	６ヶ月	－	６ヶ月	－	７ヶ月	－	６ヶ月	－
		非単語的発声	７ヶ月	－	９ヶ月	－	７ヶ月	－	８ヶ月	－	７ヶ月	－
		内容的働きかけ	６ヶ月	－	９ヶ月	－	８ヶ月	－	８ヶ月	－	６ヶ月	－
		絵本への働きかけ	６ヶ月	－	９ヶ月	－	12ヶ月	－	未出現	－	11ヶ月	－
		発話	12ヶ月	－	20ヶ月	－	17ヶ月	－	15ヶ月	－	未出現	－
		指さし	11ヶ月	－	13ヶ月	－	15ヶ月	－	13ヶ月	－	13ヶ月	－
		模倣	12ヶ月	－	15ヶ月	－	18ヶ月	－	15ヶ月	－	未出現	－

Table 3から、母親の「説明」、「演出」は、ほとんどの母子において6～9ヶ月齢という早期の段階に出現している様子が見られた。しかしながら、母親の「質問」については12ヶ月齢と、「説明」と「演出」に遅れて出現が確認された。子どもの行動カテゴリーでは、「注目」、「非単語的発声」、「内容的働きかけ」、「絵本への働きかけ」の4カテゴリーについては6～9ヶ月齢までに出現が確認される母子が多く、「発話」、「指さし」、「模倣」の3カテゴリーについては、12ヶ月齢以降に出現が確認された。

以上の結果から、絵本読みへの母子の姿勢が変化し始めた時期は12ヶ月齢であることが考えられる。6～11ヶ月齢頃まで、母親は子どもへの絵本の状況説明と声色を変化させ、絵本を動かすなどの演出が中心の読み方であり、特に質問を投げかけることは行わない様子が見られた。また子どもでは、絵に興味を持って触ろうとするといった行動は見られていたが、絵本についての言及や内容理解にはまだ至っていない様子であった。12ヶ月齢を過ぎ、指さしや発話、模倣など、子どもによる意思表示が明確となってきた様子や内容理解が進んでいると思われる様子が見られた。さらに同様の月齢から母親による質問も行われ始めるなど、母子相互行為が活発化してきたことが考えられる。

また6、7ヶ月齢といった早期の段階から、母親は声色を変化させるなどの演出行動を行っており、子どもの意思表示の明確化や内容理解の促進とは関係なく、絵本読み場面を楽しい場として作り上げていこうとしていることが考えられた。さらに12ヶ月齢以に登場人物の真似をするなどといった遊びの感覚を伴うと考えられる子どもの模倣行動が出現してきたことから、12ヶ月齢頃を境とし、母子ともにより一層、絵本読み場面における楽しさを含んだふれあい場面を作り出していったことが考えられる。

次の節では、上記のように特定の時期を境として変化が見られた母親と子どもの相互行為、特に、楽しい絵本読み場面に繋がると考えられる母親の演出行動と子どもの模倣行動はどのように展開されていくのか、母親と子どもがどのように楽しさを含んだやり取りへと発展していくのかを見るため、実際の事例から検討を行う。母子相互行為に変化が生じ始めると考えられる12ヶ月齢を境とし、その前後の月齢における母親の演出行動と子どもの反応に焦点を当て、検討する。

3．2　母親の演出が中心となった母子相互行為（12ヶ月齢前）

ここでは、絵本読みにおける母親と子どもの姿勢の変化が現れる前であり、母親の演出と状況説明が中心となっている12ヶ月齢以前の事例を抜粋し、母親の演出行動の特徴と子どもによる反応について検討した。事例1はA児（8ヶ月齢）において、絵本「ばいばい」が読まれたもの、事例2は、B児（11ヶ月齢）において、絵本「くだもの」が読まれたものである。それぞれ子ども達による注意の継続は難しく、母親の演出行動が主体となっているが、母親の演出行動によって子どもが絵本に興味を示し、母親との絵本読みに徐々に参加し始めていく様子が見られた。

事例において、Mは母親、Coは子どもを表している。また、＜　＞は身体的な行動を表し、（　）は、その発話内で確認された行動カテゴリーが記されている。

3．2．1　母親による「動物の鳴き声」や「登場人物への働きかけ（ばいばいをする）」を促す演出、「子どもの顔を見る」行動の出現と子どもによる絵本への「注目」

事例1　A児（8ヶ月齢）「ばいばい」

①M ：＜ページをめくる＞　ばいば～い＜Coの顔を見る＞　＜ページをめくる＞
　　ぴょんぴょん、こんにちは＜Coの顔を見る＞　＜ページをめくる＞　ばいばい＜Cの顔を見る＞　（演出）
②Co：＜目をそらす＞
③M ：ほら、見てごらん　きりんさん　（発声）
④Co：＜絵本を見る＞　＜きりんの絵を見る＞　（注目）
⑤M ：こ～んにちは～＜Coの顔を見る＞　＜ページをめくる＞　ばいば～い　＜ページをめくる＞
　　こんにちはっ　ゲロゲロゲ～ロ＜Coの顔を見る＞　＜ページをめくる＞　ばいばいっ＜Coの顔を見る＞
　　ゲロゲロゲロ　＜ページをめくる＞　あ、みんなにバイバ～イってやろうか＜Coの顔を見る＞
　　＜絵本に向かってバイバイをする＞　（演出）
⑥Co：＜絵本を見る＞　＜手を広げる＞　（注目/内容的働きかけ）
⑦M ：バイバ～イ　さようなら～、バイバ～イ

M＝母親　　Co＝子ども　　＜＞＝非言語的行動　( )＝行動カテゴリー

絵本「ばいばい」は、左ページに「ばいばい」の文字と右ページにキリンやカエルなど、様々な動物が主に一匹ずつ描かれている絵本であった。母親は、絵本内の文章には記されていない「ぴょんぴょん」や「ゲロゲロ」などのそれぞれの動物と関連する擬音語を発していた（事例１－①、１－⑤）。さらに、絵本の登場人物へ向けて「ばいばい」をするために手を振り、子どもに対して同様に「登場人物への働きかけ」を促すといった演出が見られた（事例１－⑤）。また、映像を文字化した際に「～」「っ」と記しているが、実際の母親の読み方から、全ての「ばいば～い」や動物の鳴き声に抑揚をつけ、明るく声を発している様子が見られた。子どもはまだ、絵本への注目行動が主であったが、母親は絵本読み場面を、楽しいふれあいの場にしようとしている様子が窺えた。

しかしながら、母親が「ほら、見てごらん。きりんさん。」と目をそらした子どもに注意喚起によって働きかけたことで、子どもは「きりん」に注目し始め（事例１－③、１－④）、また、「ばいばい」を母親に促されたことで、完璧な模倣とはいかないまでも、絵本を見ながら手を広げようとするなど、子どもが母親の呼びかけによって絵本の読みに参加し始めていく様子が見られたと考えられる（事例１－⑤、１－⑥）。さらに、子どものそのような反応を受け、母親は「ばいば～い」と感情的に絵本を読むなど、母親主体に見えても、母子の行動が互いに関連し合いながらやり取りが発展していく様子も見られた（事例１－⑥、１－⑦）。

また、この事例からは、母親による演出行動以外に「子どもの顔を見る」行動が目立つことが見出された。絵本の内容と関連した演出行動ではなく、また注意喚起としての行動とも捉えることが困難であったためカテゴリー化はされなかった行動であるが、「子どもの顔を見る」行動は他の母子にも多く見られたものであった。さらに、読み聞かせ時のスタイルは、母親が子どもを膝に座らせる形や平行に並ぶ形の２種類が主であったが、どちらのスタイルの母子においても多く確認された行動であった。特にＣ児の母親は「子どもの顔を見る」行動を常に行っており、演出行動よりも多く見られる傾向があった。

「子どもの顔を見る」行動は、子どもの現在の状況を確認すると同時に、母親が子どもとの絵本の共有を感じ取ろうとするもの、子どもと感情を共有し合い、ふれあうことを目的として現れた行動ではないかと考えられた。

３．２．２　母親の「食べ物（ここでは果物）を食べさせる」演出と、それによる子どもの絵本読みへの参加

事例２　Ｂ児（11ヶ月齢）「くだもの」

①Co：＜りんごを見て笑う＞
②M ：ぷすっ＜りんごを刺す真似をする＞　どうぞ＜手をCoの口に運ぶ＞　（演出）
③Co：＜Mの指を口に入れる＞
④M ：おお、いいねえ＜Coの顔を見て笑う＞
⑤Co：＜笑顔になる＞　＜他の絵本を持って違う方向を見る＞　＜目をそらす＞
⑥M ：今度は？＜ページをめくる＞　くーり、いてててく栗を指差し、すぐに手を離す＞　（演出）
⑦Co：＜絵本を見る＞　（注目）
⑧M ：ちくちく＜栗のイガを指差す＞　かたいかたい＜栗のイガを指差す＞　むきむきむきむきして＜むかれた栗の絵に前で、栗をむく真似をする＞　どうぞ＜Coの口に手を運ぶ＞　（演出）
⑨Co：＜Mの指を口に入れる＞　＜笑顔になる＞
⑩M ：ははっ、食べちゃうの＜Cの顔を見て笑う＞　おいしいねえ、何でも食べていい子だねえ。

「くだもの」は、りんごやスイカなどの様々な果物のリアルな絵と名称、そして食べる時の形に切られた果物が「さあ、どうぞ」の文章とともに現れる。ここでは、時折、子どもが絵本外に目を向けながらも（事例２－⑤）、母親による絵本の果物を子どもに食べさせるという演出がなされることで、絵本読みに参加していく母子相互行為の様子が見られた（事例２－⑤、２－⑧、２－⑨）。母親は、絵本の中にある果物を本物として扱っている様子が特徴的であった。母親によってフォークで刺された果物（実際は母親の手）を口元に運ばれた子どもは、それを笑顔で食べる真似をする。ここでの食べる真似は、自発的に発生したものではないため、絵の文脈を理解しての模倣には分類していない。

しかしながら、母親のこのような演出という働きかけを受けて、子どもは笑顔を見せて絵本に興味を持ち、母親もそのような子どもの姿を見て笑顔になるなど、演出行動によって親子の楽しさを含んだふれあい場面が形成されていく様子が見られたと考えられる。

また、「おお、いいねえ」と、母親の手から果物を食べた子どもの行動に積極的な同意を示しながら、「子ども

の顔を見て笑う」行動が見られた（事例２－④）。ここでも、子どもとの絵本読みを共有し、共に楽しもうとする母親の姿が見られたと考えられる。

３．３　母親による演出行動と質問行動、子どもの模倣行動が中心となった母子相互行為（12ヶ月齢後）

ここでは、絵本読みにおける母子相互行為の活発化が見られた、母親の演出と状況説明が中心となっている12ヶ月齢以前の事例を抜粋し、母親の演出行動の特徴と子どもによる反応について検討した。事例３は、Ａ児母子（17ヶ月齢）が絵本「ねんね」を読んだものであり、事例４はＢ児母子（20ヶ月齢）が「しろくまちゃんのほっとけーき」を、事例５はＡ児母子（20ヶ月齢）が「ノンタンスープたんたんたん」を読んだものである。母親が登場人物と同様の行動を真似る演出や質問行動によって子どもに働きかけることで、子どもが母親との絵本読みに参加していく様子が見られた。

３．３．１　母親による「登場人物の真似（あくびをする）」の演出を通しての、子どもの絵本読みへの参加

「ねんね」では、眠くてあくびをしていく動物たちが登場していく様子が描かれている。ここでは、母親が「あくびをする」演出を中心的に行っており（事例３－①、３－③、３－⑤）、そのような演出行動を見る事によって、

事例３　Ａ児（17ヶ月齢）「ねんね」

①M ：はわわわわわわわ＜Coの顔を見て、あくびの真似をする＞　（演出）
②Co：＜目をそらす＞　＜Mの顔を見る＞　＜手の平を口に当てて、Mと同様にあくびの真似をする＞　（模倣）
③M ：ふふふ　あわわわわ＜あくびの真似をする＞　クマくんのあくびがひと～つ　（演出）
④Co：わわわわわ＜あくびの真似をする＞　（模倣）
⑤M ：＜Coの顔を見る＞　わわわわ　＜ページをめくる＞　あれ?＜動物の絵を指さす＞　（演出/指さし）
⑥Co：＜絵本を見る＞　（注目）
⑦M ：抱っこして寝ちゃった　（説明）
⑧Co：えー＜絵本を持って顔に近づける＞　（非単/内容的働きかけ）

自らも「あくびをする」模倣を行う子どもの姿が見られた（事例３－②、３－④）。また、「あくびをする」模倣を行った子どもの様子を受けて、母親は笑いながら再び「あくびをする」演出を行い、絵本での内容を共有していこうとする様子が見られた（事例３－②、３－③、３－④、３－⑤）。さらに子どもも、積極的に絵本に関わり始める様子が見られており、母親と共に絵本を見ていくことに楽しさを感じているようであった。ここでの子どもの様子は、「食べ物を食べさせてもらう」など母親の行動が直接的に関わっているものではなく、母親の行動や発話を自分で見る、または聞くことによって模倣を行っていた（事例３－②、３－④）。以上のことから、「登場人物の真似」を実際に子どもにやって見せるという演出は、母親と子どもの双方にとってコミュニケーションの手がかりとなることが考えられる。また、母親から子どもへの働きかけが主体であった相互行為が、演出と模倣を通して母親と子どもの行動が互いに作用し合う形に変化していった様子が窺えた。

３．３．２　母親による「感情を込めたセリフ読み」の演出、「日常のルールに沿った行動（ここでは頭を下げるお辞儀）」の演出、「子どもからの回答を期待する」質問の出現を通しての子どもによる絵本読みへの参加

事例４で読まれた絵本は、ノンタンが食べ物から星やお日様まで様々なものを食べようとしていくお話が描かれた絵本であった。ここでは、母親による子どもの答えを期待した質問がなされ、それを受けて子どもが絵を指さし、適切な回答を行う様子が見られた（事例４－①、４－②）。さらに、子どもが指さした絵について「ぱくぱくだね」との母親が説明的な発話を行ったことで、子どもは食べる模倣を行うなど（事例４－③、４－④）、一つの質問行動から母子のやり取りが発展していった様子が見られた。またその後、母親が登場人物のセリフや擬音語を感情を込めて読む演出を行ったことで、子どもは笑顔で怒った声を出し、登場人物と同様にゲンコツの模倣を始めるなど、子どもが母親の演出を受けて楽しみながら絵本に集中していく様子が現れた（事例４－⑧、４－⑨、４－⑩、４－⑪）。

事例４　Ａ児（20ヶ月齢）「ノンタンスープたんたんたん」

①M ：Coちゃん、どれ好き?
②Co：これ～＜食べ物の絵を指さす＞　（発話/指さし）
③M ：うん、ぱくぱくだ　（説明）
④Co：＜絵を触って、食べる真似をする＞　（模倣）
⑤M ：おいしいねえ、　ニンジン＜ニンジンを指さす＞　（説明/指さし）
⑥Co：ニンジン＜ニンジンを指さす＞　（発話/指さし）
⑦M ：ニンジン　そうねえ　（説明）
⑧M ：いっただきま～す　＜ページをめくる＞　あれえ。　こらあっ＜怒った声を出す＞　（演出）
⑨Co：だあっ＜笑顔で怒った声を出す＞　（模倣）
⑩M ：お日様が怒った　　大きなげんこついっぱい、ごっつーんっ　（演出）
⑪Co：ごっつーんっ＜手でグーを作って、自分のおでこを叩く＞
⑫M ：ごっつーんっ　（注意喚起：演出）

事例５　Ｂ児（20ヶ月齢）「しろくまちゃんのほっとけーき」

①M ：＜食べる真似をする＞　う～んっ、おいしい～＜Coの顔を見る＞
　　＜ページをめくる＞　はい、じゃあ、今度、お皿じゃーじゃー洗ってください。
　　ゴシゴシゴシゴシ＜お皿洗いの絵の上で、洗う真似をする＞　（演出）
②Co：＜絵の上で両手を使って洗う真似をする＞　（模倣）
③M ：ゴシゴシゴシゴシ　あ～、おいしかったね～　＜ページをめくる＞
　　ご馳走様でした＜頭を下げる＞　（演出）
④Co：＜頭を下げる＞　（模倣）
⑤M ：はい、良く出来ました　おしまい

事例５は、シロクマちゃん達がホットケーキを作り、食べ終わるまでの様子が細かく描かれていた絵本が読まれた。母親はシロクマちゃんと同様に絵本に載っているホットケーキを「おいしい」との感想を交えながら食べる演出や食べ終わったお皿を洗う演出（事例５－①）、礼儀として食事の後に「ご馳走様」と頭を下げる演出（事例５－③）を行っていた。これらの演出を受けて、子どもはお皿を洗う模倣や「ご馳走様」で自らお辞儀をする模倣を行っており、Ａ児の事例と同様に、母親の演出を受けて、子どもが絵本読みに参加する様子が見られた。

これらのことから「登場人物の真似」という演出だけではなく、「感情を込めたセリフ読み」や「日常のルールに沿った行動」の演出、「子どもの回答を期待する」質問も、母子相互行為を発展させていくために重要な行動であることが考えられた。また、ここでの母子相互行為においては、子どもによる絵本の内容理解が進んだ様子も見られ、母子の言葉を介した絵本読み場面が始まりつつある事が想定された。

４．総合考察

本研究では、母子の各行動における出現時期を見出したことにより、絵本読み場面での母子相互行為に変化が見られた時期を12ヶ月齢と推定し、その時期を境に母子のやり取りが活発化していく様子を見出した。特に本研究で注目している母親の演出行動は最も幼い６、７ヶ月齢から出現が確認されたことから、母親が子どもの絵本への内容理解等の進み具合に関わらず、絵本読み場面を楽しいふれあい場面とすることを試みている様子が窺えた。

さらに12ヶ月齢を境として、その前後の月齢における実際の母子相互行為の事例から、母子絵本読み場面の行動変化を見るとともに、母親によるどのような演出行動が子どもとの楽しさを含んだふれあい場面に繋がるのかに焦点を当て、分析を行った。その結果、母子相互行為は母親の演出が主体のやり取りから、徐々に母親の演出や質問による働きかけを受けて、子どもが模倣や有意味語の発話を行い、さらに母親が反応を示すといった母子の行動が互いに一層影響し合うやり取りへ移行していく様子が見られた。しかしながら、初期絵本読み場面であっても、相互行為は母親側の働きかけだけの一方向というわけではなく、母親は子どもの笑顔や母親の行動に対する子どものちょっとした反応を受け取り、それによって次の行動に影響を受けること、また、子どもも母親による働きかけを受けることで反応を示し、母親との対話の中へ参加していくことが、事例から明らかとなった。乳児期という初期の絵本読み場面の段階から、母親と子どもは互いの行動に影響を受けながら、意図的にまたは

自然に行動を変容させていくという相互行為を基礎とし、対話を発展させていくことがいえる。

そして、そのような母子相互行為の変容過程の中で、12ヶ月齢の前後どちらの時期においても、母親の演出行動は子どもを絵本読みへの参加へ導くためには重要な行動であることが見出された。ふれあい場面へ繋がったと考えられる母親の演出行動として、「動物の鳴き声」「登場人物の真似」「食べ物を食べさせる」「感情を込めたセリフ読み」「日常のルールに沿った行動」が挙げられた。また、演出行動ではないが「子どもの顔を見る」「子どもの回答を期待する質問をする」なども、子どもとのコミュニケーションが持続したものとして考えられた。全ての母子において、常に共通していた点としては、母親は笑顔が多く、子どもと絵本を共有しようとしていたことである。母親たちは子どもを絵本へ強制的に参加させず、子どもの興味関心を遮って対話することは、ほとんど行わなかった。子ども達も母親の演出的な行動を受けて笑顔を見せる様子が多く、そのような反応を受けてやり取りを一層活発化させようとしている母親の姿も見られた。

全ての親子にとって最適な絵本の読み方が存在するとは言い難い。しかし本研究結果から、絵本読みにおいて親子のコミュニケーションを促進できる可能性のる方略の一部を提示出来たのではないかと考えられる。今後、さらに事例を検討していくことで、楽しさを含む絵本読み場面に繋がる母子の発話・行動を見出し、早期の親子コミュニケーション促進の助力となる方略を多く見出していきたいと考える。

文献

Adriana, G. Bus. & Marinus, H. van. Ijzendoorn. (1997). Affective Dimension of Mother-Infant Picturebook Reading. *Journal of School Psychology*, **35**(1), 47-60.

秋田喜代美・無藤隆. (1996). 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討. *教育心理学研究*, **44**(1), 109-120.

石崎理恵. (1996). 絵本場面における母親と子どもの対話分析：フォーマットの獲得と個人差. *発達心理学研究*, 7(1), 1-11.

堂野恵子・光本容子・堂野佐俊. (2007). 絵本の読み聞かせが幼児の向社会性の発達に及ぼす効果. *日本教育心理学会総会発表論文集*, 627.

小川香織. (2008) 絵本読み聞かせの心理療法的効果の検討―小児科の診療待ち時間における読書療法的アプローチ―. *岩手大学大学院人文社会科学研究科紀要*, (17), 37-52.

Senechal, M & Cornell, E. H. & Broda, L. S. (1995). Age-Related Differences in the Organization of Parent-Infant Interactions During Pictuire-Book Reading. *Early Childhood Research Quartely*, 10, 317-337.

菅井洋子 (著). (2012). 乳幼児期の絵本場面における共同活動に関する発達研究―共同注意の指さしからの探究―. 東京：風間書房.

外山紀子. (1989). 絵本場面における母親の発話. *教育心理学研究*, 37(2), 151-157.

謝辞

本研究において、長期間に渡り快くご協力くださいました母子の方々、そのご家族様に深く感謝申し上げます。また本論文の執筆にあたり、丁寧にご指導してくださいました文京学院大学の上村佳世子先生、お茶の水女子大学の刑部育子先生に御礼申し上げます。